

Ⅳ 資料編

平成27年度特別支援学校授業改善プロジェクトの

担当教諭19名の思い出に残る単元を紹介します。

【小学部で実践した単元】

秋田大学教育文化学部附属特別支援学校 教諭 斎藤 明

○小学部ふたば学級 単元「おはなしふたばⅠ～ももたろうであそぼう～」

○単元の要旨

本単元では、劇遊びや制作活動を通して活動に見通しをもち、友達や教師と関わりながら活動することを期待して、お話をテーマにした授業を設定した。また、物語をテーマにした活動の中で、自分の役を意識し、せりふの掛け合いや物の受け渡しを通して友達とやりとりをしたり、みんなで一緒に遊びに向かったりすることにより、一緒に活動する楽しさを味わってほしいと願い、本単元を設定した。

本単元の特徴・成果は、学級5人で「一緒に」活動することを意識付ける場面を多く設定したことで、互いに誘い合ったり、友達の準備を手伝ったりする様子が見られるようになり、互いの様子に注目できるようになったことである。また、学級での劇遊びを十分楽しんでから、保護者や交流学习で関わる他校の児童への発表場面を設けたことで、自信をもって楽しみながら発表し、達成感や満足感を味わうことができた。



【協力して鬼退治】

秋田県立秋田きらり支援学校 教諭 藤井 奈緒子 *天王みどり学園での実践

○小学部4年 単元「わくわくうどん屋さん」

○単元の要旨

教育的ニーズが異なる5名の学級であり、2名が自立活動を主とする学習を行っていた。調理の音や香り、感触等は五感に働き掛けることができ、器具の使用や計量など様々な活動を組み込み、個々のねらいに迫ることができると考え、本単元を設定した。



最初は粉遊びや粘土遊びを行った。実際にうどんを作るまでは、隣接する総合教育センターの食堂でうどんを食べて作り方を質問したり、各家庭の味を調べたり、材料を購入したりと時間を掛けて取り組んだ。また、意欲や期待感を持続できるようエプロンやのれん、屋台を制作した。成果としては、調理活動を通して自然に協力する姿が見られ、役割分担により互いを認め合う発言が聞かれ、5人の関わりが深まった。また、他学年の友達や教師、保護者を招待してうどんを振る舞い、感謝や称賛の言葉を受けたことで、成就感や達成感につながった。家庭でも調理や片付け、買い物などに興味をもち、手伝いや余暇活動につながった。

○小学部５年 単元「ハッピーバッグを作ろう～お世話になった先生にプレゼントしよう～」

○単元の要旨

地域の先生に教えていただいた「なごみアート」を活用し、分担・協力してバッグを作り、お世話になった先生方にプレゼントした単元である。一つの物を協力して作り完成させる喜びや、丁寧に作って喜んでもらおうという気持ちをもつことができると考え設定した。



ミシンを使ってバッグ本体を作り、バッグのデザインとして「なごみアート」を作成し、アイロンプリントする活動を中心に行った。長い時間や期間の活動でも意欲が持続するように、児童同士のやりとり機会の設定、活動中に出来栄や頑張りを共有し合う時間の設定、未完成分が分かるような出来高表の掲示などをした。



早くプレゼントしたいという気持ちが高まり、間に合わせようと頑張ったり、自分の役割に自信をもって集中して取り組んだりする姿が見られた。プレゼントした時は、達成感を味わうことができた。



○小学部５年 単元「ぼくたちはかみ屋さん～かみ作りの達人を目指して～」

○単元の要旨

紙すきによるメッセージカード作りと注文に応じて色や模様を入れたカードを贈る活動を中心に展開した。紙すきは、数種類の道具を使うため、興味をもって取り組める。また、工程も複数あり、分担することで児童同士がやりとりしながら活動を進めることができる。さらに、友達と共に一つの物を作り上げることで得られる達成感や、自分たちが作ったものを喜んでもらえることの嬉しさ、楽しさを感じることができると考え、本単元を設定した。

繰り返しの活動の中で紙すきの流れを覚えたり、手順表を手掛かりにしたりして一人で取り組む姿や、友達の様子を見て言葉を掛けたり、手伝ったりする姿も見られた。途中から紙に色を付けたり、模様を入れたりすることを追加したことで、一層興味をもって取り組むことができた。また、プレゼントした相手が喜んでくれたことをうれしく思い、次の活動への意欲にもつながっていた。プレゼントする相手とは授業以外の場面でも自分から関わるが増え、コミュニケーションの広がりも見られた。

○小学部 5・6 年 単元「われら工房えいと！～染めよう！作ろう！届けよう！」

○単元の要旨

自分たちで染めた布と牛乳パックを加工して小物を制作した。染めた布をそのままプレゼントするのではなく、普段使える物に加工し、実際に使っているところを見たり感想を聞いたりすることで、達成感や次の活動への意欲につながると考えた。また、次の手順を担当する友達との物の受け渡しやプレゼントする相手とのやりとりを通して、相手や場に応じた話し方や返事の仕方、丁寧な物の受け渡し方を身に付けることができると考えた。

単元の間でお披露目を設定し、後半にはプレゼントする活動へ発展させた。お披露目会では、それまでの頑張りを認められたり、称賛されたりしたことで、次の活動への意欲が高まった。また、プレゼントに向けて注文を取ることで、相手をより意識し、「プレゼントする物だから丁寧に作らないと」という発言が児童からあり、これまで以上に意欲的に活動に取り組む姿が見られた。さらに、秋田ディステーションキャンペーンや木曜カフェオープンの機会を利用し、のぼりや暖簾を作ってプレゼントしたことで、多くの人から称賛され、満足感を感じていた。

【中学部で実践した単元】

○中学部 1 年 単元「いももち屋さんを開こう」

○単元の要旨

本学年の全盲の女子生徒 1 名は、一つの活動に長時間持続して取り組むことは苦手だが、対象物に触れて感触を楽しむ活動を好み、満足するまで取り組むことができる。「いももち屋さん」を開くことにより、材料の感触を十分に感じ取って調理に取り組むことと、友達や先生への販売に期待感をもって活動することができると考えた。



【生地を型に入れる動作】

いももちの作り方を覚えることができるように、調理の手順や材料を歌詞にした歌を学習の始まりに歌った。開店まで何度も調理することで一連の活動を覚え、言葉と動きを一致させて取り組むことができた。販売日は、長時間の接客に疲れて座り込むこともあったが、お客さんの存在に励まされ、接客を続けることができた。

「いももち屋さんを開く」という一つの目的に向かう学習を通して、相手の話をじっくりと聞く、調理等の活動内容が分かって少し難しい活動にも根気よく取り組む等、落ち着いた気持ちで活動に向かう姿が増えた。

○中学部 1 年 単元「V S 中 1 Ⅲ～国際教養大学の留学生とゲーム対決～」

○単元の要旨

自分の考えを周囲に明確に伝えることが苦手で、役割をやり遂げる経験が少ない生徒たちである。そこで、生徒全員が好きなゲーム（輪投げ）を制作し、自分たちで楽しんだ上で、対戦相手に内容を紹介しながら取り組む単元を設定した。



二人で協力して運ぶためにゲーム盤を大きくしたり、ゲーム盤を正しく置くために盤の角に印を付けたりとしたことで、「手伝ってほしい」「こうだよ」など互いに気付いたことを伝えるようになった。また、進行役の生徒の立ち位置が分かるように動線を考慮した教室内の配置にしたことで、進行役の生徒は、進行を行う位置に自ら向かえるようになった。次の活動が分かるように場の設定や教材の工夫をしたことで、場面ごとに学習が積み重なり、自信をもって行動する姿に結び付いた。これは、ゲームの対戦相手が初対面の留学生であっても、ゲームの紹介や進行ができ、楽しむ姿が見られたことから明らかであった。

○中学部 1 年 単元「附特支テレビ中 1 W A T C H トレナビ
～『元気ランチ中 2』を紹介しよう～」

○単元の要旨

学級という安心できる集団を基盤として、前期は警察署や銀行などを取材した。後期は更に人間関係の広がりや様々な関わり方について気付くことができると考え、1・2年生の互いの生活単元学習での取組を生かし、合同で学習を進めた。

後期の本単元の特徴は、1年生のテレビ局が2年生の弁当屋を取材する中で、2年生の長所や適切な関わり方を知る学習活動を取り入れたことである。また、取材したことを3年生や保護者に発表する機会を設定したことで、自分や仲間の役割が分かり、生徒自身で発表活動を進めることができた。

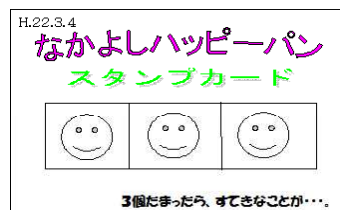
合同による学習を通して、先輩のよさや頑張りに気付いたり、先輩から取材や発表の仕方について褒められたりした。これにより「自分も〇〇先輩のようになりたい」と憧れを抱いたり、「僕の発表の仕方はよかったんだ」と自分の行動に自信を深めたりすることにつながった。また、発表会に向けて仲間同士で話し合い、作り上げていく中で、お互いを思いやり、助け合う姿が見られた。また、発表会の成功により、次年度の活動への意欲付けにもつながった。

○中学部 1 年～3 年 単元「開店！なかよしハッピーベーカリー！！」

○単元の要旨

中学部 1 年から 3 年まで担任した学級（8 名）で実施した 3 年間にわたる「パン作り」の単元である。「パン屋さんになりたい」という生徒の声を受けてスタートした。パン作りを体験して終わるのではなく、継続して取り組むことが生徒の目指す姿に迫ることができると考え、長期の単元として取り組んだ。

多様な実態の集団の中で、調理工程の分担の工夫や協力して行う状況設定により、個々のねらいに迫るとともに、学級が一体となって取り組むことができた。また、調理から販売までの一連の活動を生徒自身の力で実現できたことに加え、新メニューへの挑戦、教師の支援量の調整、他学年・学級との合同店舗の開店など、多様性・発展性のある展開が実現できた。さらに、材料の購入・計量の一部を数学科で取り扱うなど、教科との関連も図りながら柔軟に展開できた。



○中学部 1～3 年 単元「おもてなしふれあい展を開こう」

○単元の要旨

本単元は、角館の外町交流広場を会場に活動パネルや美術作品、作業学習製品等を展示して本校の活動を紹介する中で、「茶房せんぼくや」を開店し、手作りの「水ようかん」で地域の方々におもてなしをする学習である。おもてなしをして地域の方々に喜んでいただくことで、「感謝される喜び」を体験できると考え、本単元を設定した。

開店に向けての準備では、お客様に喜んでいただけるように「丁寧な対応」を心掛け、グループ対抗のおもてなし審査会を行った。各グループが「丁寧な対応」を目指して練習を重ね、グループ内で話し合いが生まれたり、おもてなしの留意点をより意識したりするなど、学習への意欲が高まった。

開店当日は、水ようかんを食べたお客さんから「とてもおいしいです」などの感想をいただき、丁寧な対応を賞賛いただいた。その中で生徒は達成感や満足感を味わい、大きな自信を付けることができた。



○中学部２年 単元「由利本荘ピカピカ大作戦」

○単元の要旨

本単元は、生徒が活動に見通しをもち、主体的に清掃活動に取り組むとともに、地域に出て清掃活動を行うことで感謝される体験を重ねたり、いろいろな人から活動を認められたりすることで達成感を味わい、自信につなげてほしいと考え設定した。



本単元の主な特徴は２点あり、①活動への期待感を高められるように、生徒がロゴをデザインした揃いのＴシャツを制作・着用して清掃活動に取り組んだこと、②見通しをもち主体的に取り組むことができるように、経験したことがある活動や得意な活動を取り入れたことである。主な成果は２点あり、①散歩に来ていた保育所の子どもたちがゴミを拾って持ってきてくれたり、地域の方から飲み物の差し入れを頂いたり等、地域の人に活動を知ってもらい認められる経験ができたこと、②自分のやるべきことが分かり、教師からの言葉掛けがなくともグループの友達と協力してゴミ拾いに取り組むことができたことである。

○中学部２年 単元「チャレンジ！はばたけ畑 花編」

○単元の要旨

生徒が身近な仕事について調べ、壁新聞を作り、発表するという活動に、年間を通して取り組んだ。植物（花：アスター）の植え方、畑の作り方、花屋の仕事を知らなどの基礎的知識の習得や、学級の生徒同士で役割分担や協力をして壁新聞を作成するなど、集団での役割の理解や協力をねらい、本単元を設定した。

畑作りは、畝立てや種まきに適した土の深さを知ったり、５月～９月までの長期にわたって、適切な水やりや除草など丁寧な畑の管理の大切さを学んだりすることができた。

実際に花屋の仕事を見学し、仕事に必要な道具や花のラッピングの仕方などを知ることができた。ラッピングは、生徒たちの興味を引き、自分でもやってみたいという意欲をもつことができた（後に学校で、実際にラッピングをした）。

壁新聞にまとめる際は、内容やレイアウトを生徒同士で考えて進めることができた。中学部の友達の前で壁新聞を発表した場面では、他学級の生徒が内容に関心をもつ姿が見られ、その様子から生徒たちはこの学習に満足感を得ることができた。

○中学部３年 単元「ぼくらの店 げんき喫茶」

○単元の要旨

本単元は、主に以下３点の理由から設定した。

- ・生徒たちから「調理が好き」「物を作りたい」などの思い・希望があった。
- ・喫茶店開店という目標を生徒が共有し、製作や調理、練習などの活動ができる。
- ・喫茶店の活動を通して、人と接する上でのマナーを身に付け、関わりの面での成長をねらうことができる。

喫茶店開店を目指し、必要な物（看板やコースター、エプロンなど）の製作活動、メニューの相談、調理や喫茶の練習を繰り返し行った。年間を通して、製作や調理をする物、招待するお客などを替えながら４回の単元を行った。自閉的な傾向のある生徒が多い学級であったが、「安心して自分から活動する姿」「友達の役割に興味をもち、自分から挑戦したり試したりする姿」「自分からお客に働き掛ける姿」が見られるようになった。また、喫茶の役割や目標を共有することで、必要な道具を友達に手渡したり、友達が戸惑っているとそっと手伝ったりするなどの生徒同士の関わりが増えた。

○中学部３年 単元「卒業証書を作ろう」

○単元の要旨

中学部３年生として卒業を迎える生徒同士が役割分担し、助け合いながらそれぞれの卒業証書を作ることを主眼とした。

卒業証書の用紙を、自分たちが育てた稲わらを原料として用い、細かく切る、煮るなどの加工をしてパルプ液を作り、紙すきをして作りあげる。紙すきの過程では大型のすき枠を用いるため、生徒一人では作ることが困難であり、全員で協力しながら作る必要性が生じる。また、証書の用紙となる美しい紙を作るために、出来上がった紙を見ながらパルプ液の作り方を変えていくなど、生徒が自分たちで試行と改善の一連の過程を繰り返し行っていく活動の設定が可能である。A４判の美しい紙を作るという活動は生徒にとって難易度の高い活動であったが、すき枠や網を二人で持ち上げる活動では、友達の動きを見て懸命に合わせようとしたり、声を掛け合って力と息を合わせようと工夫したりした。失敗等の経験を通して生徒同士で考えたり工夫したりしながら取り組もうとする積極的な姿が全員に見られ、生徒たちに結束が生まれた。



○中学部 3 年 単元「Good Job 中 3 パート 1 ～附特竿燈を広げよう～」

○単元の要旨

本単元は、本校の特色である竿燈を題材にして単元を構成した。本校の竿燈「附特竿燈」は、8月の秋田竿燈まつりへの出場に向けて生徒たちが期待感をもち、意欲的に取り組んでいる活動である。そこで、生徒たちの興味・関心が高く、自信をもって取り組める題材として、「附特ミニ竿燈」を制作する学習を設定し、様々な場面で生徒が相互に評価し合う活動を取り入れ、達成感を味わうことを目指して取り組んだ。

単元の特徴は次の3点である。

- ・学習過程における相互評価と達成感に着目した授業づくりを行った。
- ・本校小学部や地域の保育園との交流を通して、ミニ竿燈の作り方を教える活動を行った。
- ・仲間と一緒に竿燈について調べ、仲間と協力してミニ竿燈を作る活動を設定した。

本単元では、仲間と意見を出し合い、工夫したり認め合ったりする活動（相互評価）が人と関わる力を高めるために効果的であった。また、そのことが仲間と一緒に完成させた、うまくできたという喜びや達成感をより大きなものにすることができた。

【高等部で実践した単元】

○高等部 1 年 単元「シュークリーム道場～お茶会をひらこう～」

○単元の要旨

8名の学習集団である。友達が困っている場面があっても関心を示さない生徒もいるが、仲のよい友達に対しては協力的である。本単元では全員が大好きなシュークリームを協力して作り、お世話になっている高等部の教師を招待するお茶会を実施した。一人一人に役割を設定することで、自分の活動が分かるとともに、物を媒介にしながら友達と関わり、協力して作ることができると考えた。

最初は工程が分かる生徒だけで進めていこうとしたが、工程の中での様々な役割を体験する機会を設けたことで、徐々に自ら友達を手伝ったり、手伝いを依頼し合ったりしながら作ることができた。



また、招待する教師に喜んでもらえるにはどのようにしたらよいかアイディアを出し合い、生徒同士で役割分担しながらお茶会の準備を進められるようになった。

○高等部１年 単元「クラスメートへのプレゼント」

○単元の要旨

肢体不自由特別支援学校での実践である。生徒たちは自宅や施設内で過ごすことが多く、欲しいものがあったとしても外出が困難であるため、家族に買ってもらうことが多い。そこで、必要な物や欲しい物を自分で購入する経験が必要であると考え、クラスの２学期反省会でのプレゼント交換に向け、買い物をする機会を設定した。

事前学習では、男女のグループに分かれて、予算内で買うことのできるプレゼントの候補を話し合い、プレゼントを購入する店をいくつか調べ、行く店の順番を決めた。身近な相手にプレゼントするということで、生徒たちはとても意欲的であった。当日は、手袋を購入することに決めた男子グループが、予算内で手袋を見つけたものの、豊富なデザインの中からどれにするか悩む場面もあった。

プレゼントの予算があり、購入する時間も限られている中で、グループのみんなで相談して決めたプレゼントを購入できたことから、生徒たちには満足感いっぱいの表情が見られた。

○高等部２・３年 単元「絆カフェ開店プロジェクト」

○単元の要旨

地域におけるプランター設置活動や除雪ボランティアなどの貢献活動を通して、生徒の「地域に学校をアピールしよう」とする意欲が高まっていた。そのことを受け、地域での活動を実現するために、生徒同士が協力し合い、主体的に目標達成や課題解決に向かおうとする姿を目指して、本単元を設定した。

本単元は、地域のイベントにおけるカフェ出店に向けた学習である。地域の店舗や人材を積極的に活用し、カフェの運営に係る情報収集や技能の習得を行い、生徒に「本物の店」として意識付けることで、運営に自ら参加しようとする主体性を育むことを主眼とした。そのことで、出店を重ねるたびに、生徒の活動への取り組み方に変容が現れ、運営上の様々な課題を自分たちで解決しようとする意欲を高められた。



○高等部3年 単元「高3舞桜プロジェクトⅡ～『比内とりの市』に参加しよう～」

○単元の要旨

1月末に行われる「比内とりの市」への参加を通して、地域の一員としての意識と社会参加する力を一層高めることを目的とした単元であり、学部及び学年で積み重ねてきた地域に展開する教育活動の集大成である。

「比内とりの市」では、創作たんぼの販売活動と自主企画の2本立てとし、地域の各団体と同じ条件で出店、参加した。おいしくて売れる商品の開発や地域の方に楽しんでもらう企画を、生徒が自分たちで相談して決め、計画、準備、実践に当たった。

地域のプロから学んだり、来場者の視点で考えたりと真剣に取り組む中で、生徒同士の団結力や主体性の高まり、地域活動に参画・貢献した手応えから、達成感や自信の獲得などの成果が得られた。



【とりの市の自主企画】



【よさこい演舞の様子】